

戦略的イノベーション創造プログラム（S I P）  
「スマート物流サービス」推進委員会（第1回）  
議事要旨

1. 日 時：平成30年6月8日（金） 17：00～18：00

2. 場 所：中央合同庁舎第4号館 12階1202会議室  
（東京都千代田区霞が関3-1-1）

3. 出席者：（建制順、敬称略）

<議長、プログラムディレクター>

田中 従雅 ヤマトホールディングス株式会社 執行役員 IT戦略担当

<サブ・プログラムディレクター>

小倉 正弘 日立物流株式会社 理事 IT戦略本部長

谷口 友彦 SGシステム株式会社 代表取締役社長

今井 哲之 大日本印刷株式会社 IoTプラットフォーム本部長

<管理法人>

石井 正樹 国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 特別研究主幹

<関係省庁>

仙崎 達治 内閣官房 情報通信技術（IT）総合戦略室 企画官

（代理出席：信朝裕行 政府CIO補佐官）

飯田 洋 内閣府 宇宙開発戦略推進事務局 準天頂衛星システム戦略室 企画官

杉野 勲 総務省 総合通信基盤局 電波部 移動通信課長

（代理出席：石黒丈博 課長補佐）

井上 悟志 農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究統括官付（生産技術） 研究調整官

伊奈 友子 経済産業省 商務情報政策局 消費・流通政策課 物流企画室長

生駒 豊 国土交通省 総合政策局 技術政策課 技術開発推進室長

英 浩道 国土交通省 総合政策局 物流政策課長

平野 達也 国土交通省 総合政策局 物流政策課 企画官

西尾 保之 国土交通省 港湾局 技術企画課 技術監理室長

（代理出席：川俣満 課長補佐）

田村 颯洋 国土交通省 海事局 海洋・環境政策課 技術企画室長

<事務局>

黒田 亮 内閣府 大臣官房審議官（科学技術・イノベーション担当）  
浅野 右樹 内閣府 政策統括官（科学技術・イノベーション）付 参事官（戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）担当）付 参事官補佐  
松本 一紀 内閣府 政策統括官（科学技術・イノベーション）付 参事官（戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）担当）付 上席政策調査員

4. 議 事：

- (1) 推進委員会の設置及び運営要領について
- (2) 推進委員会の構成員とするサブ・プログラムディレクターについて
- (3) 研究開発計画案について
- (4) 今後のスケジュール
- (5) その他

5. 配布資料

資料1-1 SIP「スマート物流サービス」推進委員会の設置について  
資料1-2 SIP「スマート物流サービス」推進委員会運営要領（案）  
資料2 サブ・プログラムディレクターについて  
資料3 SIP「スマート物流サービス」研究開発計画（案）

参考資料1 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）の概要  
参考資料2 科学技術イノベーション創造推進費の基本方針  
参考資料3 平成30年度戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）の実施方針  
参考資料4 戦略的イノベーション創造プログラム運用指針

6. 議事要旨

議事に先立ち、黒田内閣府大臣官房審議官より、開会のご挨拶があり、府省連携の重要性、採り上げている課題の重要性、田中PDに期待すること等について説明があった。

次に、事務局から配布資料の確認（メイン資料が四点、参考資料が四点）を行った。

なお、議事の進行は、内閣府事務局（浅野参事官補佐）が行った。

- (1) 推進委員会の設置及び運営要領について  
科学技術イノベーション創造推進費の基本方針（平成26年5月23日総合科学技術・イノベーション会議議長決定、平成30年3月29日改正）に則り、「スマート物流サービス」の推進にあたり、研究開発計画の作成や実施等に必要な調整等を行うため、「スマート物流サービス」推進委員会の設置について、資料1-1に基づき、検討事項、構成及び運営、設置期間等について、事務局（浅野参事官補佐）から説明がなされた。

続けて、田中 PD より、資料 1 - 2 に基づき、推進委員会における議事の手続き、その他運営に関して規定する『戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）「スマート物流サービス」推進委員会 運営要領（案）』の説明がなされ、出席委員の審議の結果、了承された。

(2) 推進委員会の構成員とするサブ・プログラムディレクターについて

推進委員会の構成員とするサブ・プログラムディレクターについて、資料 2 に基づき、戦略的イノベーション創造プログラム運用指針（平成 26 年 5 月 23 日 SIP ガバニングボード決定、平成 30 年 3 月 30 日改正）に則り、田中 PD が候補者を人選し、サブ・プログラムディレクターを研究開発項目（A）、（B）、（C）毎に 1 名ずつ置くことについて、田中 PD より説明がなされた。

研究開発項目（A）『物流・商流データプラットフォームの開発』のサブ・プログラムディレクターには、株式会社日立物流 理事 IT 戦略本部長の小倉氏が、研究開発項目（B）『「モノの動き」の見える化技術の確立』のサブ・プログラムディレクターには、SG システム株式会社 代表取締役社長の谷口氏が、そして、研究開発項目（C）『「商品情報」の見える化技術の確立』のサブ・プログラムディレクターには、大日本印刷株式会社 IoST プラットフォーム本部長の今井氏の計 3 名が田中 PD より紹介され、サブ・プログラムディレクターとして選出した理由についても言及された。

(3) 研究開発計画案について

6/14（木）第 83 回 SIP ガバニングボードへの提出に向けて、現在作成中の研究開発計画案（資料 3）について、田中 PD からは課題全体の背景、目標、出口戦略等について説明があり、研究開発項目（A）～（C）については、各サブ・プログラムディレクターより概要等の説明があった。

(4) 今後のスケジュール

下記の点を事務局（浅野参事官補佐）から説明があった。

- ・ 現在、SIP 第 2 期の研究開発計画については検討・調整中であり、今後、総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）有識者議員からなる SIP ガバニングボードで議論、決定される運び。
- ・ このため、本日の推進委員会の位置づけは、府省連携である SIP の特徴を踏まえ、関係府省の課題担当者にお集まりいただき、現時点での研究開発計画案を様々な視点から詰めることを目的とするもの。
- ・ 事務局としては、引き続き SIP 全体の透明性をより高めるための工夫に取り組んでいきたい。具体的には、研究開発計画案をパブリックコメントに付し、そこで得た有益な意見を積極的に計画案に盛り込んでいくことも一案。
- ・ 全体のスケジュールについては、ガバニングボードで決定次第、速やかに公表し、実

施していく所存。

(5) その他

農林水産省 農林水産技術会議事務局 井上研究調整官からは、次のコメントがあった。

- ・ 生産現場と消費までの情報を合わせた高付加価値な運搬は、非常に重要でありながらも課題を抱えており、SIP 物流の成果を活用し、早期に解決できることを期待している。課題間の連携を着実に進めていきたい。
- ・ 物流のデータベース、プラットフォーム等で蓄えられたノウ・ハウを活用できれば、SIP 農業の社会実装の加速に資するところがある。

最後に、内閣府の黒田大臣官房審議官から、「SIP 物流で採り上げるテーマはどれも日本が抱える最重要な課題であり、5年の計画に対して5年で完成とは言わず、1日でも早期に社会実装できるよう、関係省庁が相互に協力し、強固な連携関係を築くことをお願いしたい、さらに SIP の他の課題とも連携し、成果を共有することで、さらに加速し、課題に万進されることを強く望む」と、推進委員会全体を通した講評があった。

それに応えた形で、議長の田中 PD から、「本日頂いたご意見、ご指摘は十分に検討をし、研究開発計画案へ最大限に反映することとし、引き続き、研究開発の促進と早期の成果達成を目指していきたい」と、力強い結びの挨拶があった。

以 上